



ガラパゴス

久しぶりに風邪を引いた。マスクと咳とで、通勤は地獄である。針の筵さながらである。しかし、流行の最中で、落ちどころも不明なので、今回は、携帯の話である。

いまでもガラケーと言われ、犯罪仕様？といわれるプリペイド式で、過日残金を調べようとしたら、カード販売は本年 6 月まで、サービスは来年末に終了とのアナウンスが流れてきた。20 年弱使い続けてきたプリペイドももうすぐ最期である。

使用機種は au で、1 万円カードの有効期間は 365 日なので、基本機能（電話、ショートメール、目覚まし、マナーモード、写真）のみであれば一年間問題はなかった。またショートメールは au 間のみから、au 以外からも受信できるようになったが送信は不可である。そこで妻子は今でも au と協力的であるが当然スマホである。孫は私のガラケーを開いて、画面にタッチしたり、サーッと指を動かしても全く反応しないので、すぐに飽きてしまった。スマホ知らずとしては、家族会議が必須になった。

なぜガラケーか。安いのは別として、スマホでないメリットは、呑兵衛からの誘惑メールどころか、芸能界花盛りの浮気メールも届かず、ご赦免になりやすいというところか。一番は、ショートメールの 50 字制限である。不要文字の削除や漢文調に変えたりと、呆け防止に役立つこと必須である。第二に、画面の変化が緩く目に優しいことである。三番目は充電が週一で済むことである。スマホは毎日充電するというのを聞き昨年驚愕した。

「スマホブス」「スマホバカ」と路上や車中で喉まで出かかるときがある。画面に集中し過ぎて視野狭窄になり周りが見えなくなるようだ。一人の時間ができると、信号待ちでも車中でも即スマホである。青になっても、ドアが開いても、自らのテンポの遅れが迷惑をかけるとは思わないのだろう。ドアが閉まる直前の駆け出し降車は、昔酔っ払い、今スマホである。加えてオリンピックに向けて至る所で改装工事が進んでいる中、車中皆スマホ的な異様な状況を世界に見せる？と懸念するのはガラケーだけだろうか。

食事のスマホも嫌いである。食べる前の写真は我慢できるにしても、スマホりながら（ガラパゴス語である）食べるのはいかにも不味そうで、こちらまで食欲が失せる。金を払えば自分の勝手とはならないだろう。ましてや友達といっても皆スマホとは厭きれる限りであり、見ないまでもテーブルにスマホを置いて男と食事する女は論外である。

などといいつつも、今でも都内を散策する時に地図帳を持ち歩くガラパゴス人としては、妻子間で孫も入ったの動画での会話は、一度してもいいなと思っているのも事実である。使う以上は、スマートに行きたい。

麻賀倫太郎